

2021 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [山梨県立笛吹高等学校] 担当教諭名 [相川 恵子・長谷川 創] (美術部 9名)
 相手国・地域 [モンゴル]
 海外学校名 [Shine Mongol High School] 担当教諭名 [Norjmaa Duvchin]

■実施教科・時間数について教えてください。

| | | | |
|-------------------------|-------|--------------|-----|
| アートマイルに関連した 実施教科・時間数 | 教 科 | 単 元 名 | 時間数 |
| | クラブ活動 | アートマイルプロジェクト | 54 |

■作品に込めた想いについて教えてください。

| | |
|---|-----------------------------|
| 題 (テーマ) | 持続可能なまちづくり |
| メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ) | 都市部と農村部が仲良くして問題解決できればいいのにな！ |
|  | |

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

| 成 果 | 課 題 |
|---|--|
| 他国の価値観に触れ、世界の問題を知ることで、ものの捉え方と見方に広がりが出た。 計画通りに進まない時の応用力、長期的に学びを進める持久力、相手の状況を推察する想像力、活動を主体的に牽引していく忍耐力が育まれた。 自分の考えを相手に伝える工夫や、相手の意見を理解する努力を重ね、話し合いの重要性を実感できた。 | 相手校と当校の高校生同士が直接的に意見交換や共有をしたかったが、相手の反応があまり見えなかったことに不安を覚えた。相手側のレスポンスを促す工夫がもっと必要だった。 協働学習において、学習意欲と取り組み姿勢に個人差が出てしまった。 長期間の取り組みなため、学習の経過が見えづらく、飽きてしまい、離脱する生徒が出てしまった。 |

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

| 児童生徒の意識の変化 | 教師の意識の変化 |
|--|--|
| 他者に紹介することで自分や地域社会のことを再認識していた。SDGsとモンゴルに関する関心が増した。哲学対話を実践して、他者の疑問や意見を聞き、そこから思考を深めることが出来るようになった。地球全体に関わる様々な問題点を、身近な生活の中から見出し、自分なりの解決方法を探る意識を持てるようになった。 | モンゴルは遊牧と豊かな大自然の印象が強かったが、近代化により都市に人が集中し、公害とスラムの問題を抱えていることを知った。格差も問題になっている中で、都市にある学校で学ぶことができる生徒たちは恵まれた環境にいると、予測できた。その彼らがどのように将来への見通しを持っているのか、関心を持った。 |

■主な活動の流れを教えてください。

| 場面 | 時期 | 活動内容 | 児童生徒の反応 | 実施教科等 |
|--------------------|----------------|---|---|-----------|
| 出会い 自己紹介 | 6月 7月 | 自己紹介カードと自分を撮った写真、学校について校長にインタビューした動画、地域紹介のスライドを作成し、相手校に伝えた。モンゴルについて調べ、生徒間で共有をした。 | Web会議で自己紹介をする予定が、コロナの影響で中止になってしまい、残念そうにしていた。相手に伝わりやすいように工夫しながら紹介資料を作成していた。モンゴルの生徒たちが自分の高校や、地域に興味を持ってくれることを期待していた。 | 部活動 16 |
| 共有 テーマ学習 | 8月 ～ 10月 | SDGsの概要を調べ理解した。相手校との共通テーマをGoal11に決め、自分達の地域社会の問題点を探した。現状を見詰めるためにマインドマップを作成した。未来を想像しながら哲学対話で思考を深めた。 | SDGsの中から自分たちの目標をどれにするか、辛抱強く話し合っていた。テーマを基に地元を見つめ、環境、福祉、地域力など、身近に問題が沢山あることに気が付いていた。ひとつのトピックに対して、一人ひとりが思うことや、感じることを話す哲学対話が印象に残ったようだ。普段の生活の中では、相手が思っていることを深く聞き、話す機会はなかなか無いので良い経験ができた、という感想があった。 | 部活動 20 |
| 融合 メッセージ作成 | 11月 | 相手校と情報共有したことで、都市部と農村部では課題が違うことを理解した。交互の共通点を探り、メッセージを考えた。 | 少しユーモアを混ぜた高校生ならではの斬新な内容で、相互の問題を解決している絵画を描くことに決めていた。農育と少子化問題を掛け合わせた案に特に面白みを感じていた。都市部と農村部両方の魅力的なところをどのように表現できるか十分に話し合っていた。生徒たちにとって、今回の活動で一番大事な時間になったようだ。 | 部活動 4 |
| 創造 壁画制作 | 11月 12月 | 斬新な問題解決方法を練り、相手校の同意を得ながら図案を考えた。お互いのスケッチを見せ合い意見交換をした。画面構成を決め、半面に描画し相手校に送付した。 | 制作期間が1週間ほどしかなく、かなり焦って制作していた。互いの絵が交わる画面構成を考え出し満足していた。限られた色の絵具で彩色することを難しそうにしていたが、共同作業を楽しんでいた。 | 部活動 12 |
| 評価 振り返り 自己評価 | 3月 | これまでの活動を振り返り、自分自身の世界に対する意識の変容を確認した。仕上がった作品を鑑賞して、相手校に伝えた。 | 今回の活動を通して、自分の生活の中に多様な課題が沢山あることに気づき、解決するために何ができるかを意識できるようになった。 | 部活動 2 |

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

| 学習目標・つきたい力 | 評価 | 教師がそう感じた場面と理由 |
|---------------------------------|----|--|
| 異文化・自文化を理解する力 | 4 | 作品の主題は自分達が希望するものではなかったが、相手校の抱える深刻な社会情勢を理解し、持続可能なまちづくりをテーマにすることを了承していた。自分達の地域を顧み、持続不可能にしている問題点を多く見つけていた。 |
| 批判的に思考する力 (客観的・論理的視点) | 3 | 相手校の生徒と意見を交換することは叶わなかったが、先方が出してきた見解を生徒たちは自分なりに受け止め、真摯に答えていた。自分達の地域が抱える課題と解決方法について、哲学的に対話する機会を持ち、それぞれが深く思考する姿がみられた。 |
| 主体的に考え行動する力 | 4 | 生徒が自分の捉え方で考え、表現をして良いのだという承認が得られると、自発的に学ぼうとする姿勢が見られた。いかに子どもが自信を持って自由に学べるかどうかは、周りの承認から醸成される自己肯定感なのだと感じた。 |
| 多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働) | 3 | 語学も然ることながら、自分がどのように考えるかを伝えることを大切に対話を進めていた。相手校と対話的に対話を深めることはできなかったが、相手の反応を受け止め、活動が思い通りに進展しない中でも、牽引していこうと努力していた。 |
| 想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作) | 4 | 相互の課題を理解し、相違点と共通点を分析することで、共同のメッセージを導き出していた。また、それを壁画作品として視覚化する際には、世界に問いを投げ掛けるために、ユーモラスでインパクトの有る解決策を提示していた。 |